

家庭教育支援活動チームから NPO 法人へ ～つなぐ 絆～

NPO 法人ポポーのひろば(山形県村山市)



次世代育成の順送り

家庭教育支援基盤を形成しようと地域に働きかけた結果、先輩世代から後輩世代への「知恵と思いやりのバトン」の存在が明らかになりました。そしてバトンを渡す手順をたどると、下のような次世代育成のサイクルが形成されました。次世代育成を「育ちの順送り」ととらえると、こんなにも優しい関係が隠されていたのです。子どもたちの明るい笑顔と未来のために…今、必要なのは「次世代育成サイクル」の再構築、つまり絆づくりなのだと思っています。

取組のきっかけ

「地域に子育ての応援団を作いませんか？」そんな声掛けから始まった小さな団体でしたが、村山市家庭教育推進協議会の趣旨に賛同して直属の活動チームとなり、文科省家庭教育関連事業を2年間(20・21年度)委託されました。夢中で取り組み、ふと立ち止まって振り返った時に、おぼろげであったものが輪郭を持って見えてきました。それは、「次世代育成の順送り」です。

赤ちゃんの愛らしさは
祖父母世代の心をいやし
「いきがい」にもなります



祖父母世代は、ボランティア・
リーダーであり、私たちの心強い
サポーターでもあります



地域の中で見守られ、
育っていく子どもたち



先輩の親が聞き手になることで
子育ての不安が解消されます
子育てピア・サポートの原点

次世代育成

高校生が幼い子に見せる表情
は、優しく穏やかです



若い母親から聞く子育ての話
は、高校生にとって興味深い
ものようです

カフェ形式の語り場

訪問型家庭教育相談体制を充実させるため、取り組んだのは「カフェ形式の語り場」でした。カフェという気軽な集いの場に、支援者がさり気なく入り、親たちの話し相手になりました。こうした試みから「ひろば」を運営したいという思いがチーム全体に強まりました。事業終了後も、この取組を何とかして続けたかったのです。



公民館の会議室が即席の世代間交流カフェに



日曜日の市役所中庭はオープンカフェに変身

幸運だったのは、その時期に村山市が「ひろば型子育て支援拠点」を新設し、民間に運営委託する予定であったということです。チームは任意団体からNPO法人となり、新たなスタートを切りました。人と人とをつなぐことを活動目的として。



運営をはじめた「親子交流ひろば」
震災後、福島や宮城からの利用者も多くありました

常設の「ひろば」以外に自主企画も積極的に行い、「次世代育成の輪」のほか、「共に学び育つ体験」「郷土愛の育み」「Fathering」などに新しい発想を取り入れています。たとえば乳幼児と母親のキャンプを企画し、子どもたちが眠った後の「カフェ」を用意したところ、母親たちは時間を忘れて話し込み、互いに共感し、自分達の経験から学ぶ姿が見られたのです。



母子キャンプでは話がはずんで、ついつい夜ふかし



郷土愛を育む企画 身近な自然にふれて成長します

東日本大震災で、深い哀しみを受け、 多くの痛手に苦しんでいらっしゃる方々へ

山形県は、みなさまの隣県です。私たちにとっても親や親戚・友人が住まう愛しい地であり、あの日を消し去りたいほど憎みつつも、まずは一日も早い復旧復興を心からお祈り申し上げます。地理的にも、心理的にも、すぐに手を差し伸べることのできる距離にいます。そして、何よりお力になりたいと思っています。私たちポポーのひろばに大きな力はありませんが、必要ならそっと肩をお貸しするように息長く応援し続けていきます。どうぞ頼って下さい。

チーム名：NPO法人ポポーのひろば

活動開始：平成20年6月1日～(平成22年7月1日NPO法人認証)

活動人数：8人

団体住所(連絡先など)：山形県村山市橋岡五日町14-20